

「開発教育支援事業担当者会議」 出張サービス報告書

日時：2012年1月25日（水）14：30～15：30

場所：JICA 地球ひろば 301 セミナールーム（東京都渋谷区広尾 4-2-24）

事業名：JICA 開発教育支援事業担当者会議

主催団体：JICA 地球ひろば

出張者：（特活）開発教育協会 中村絵乃

実施内容：会議における情報提供

全国に16あるJICAの国内拠点から開発教育支援事業担当者（職員、調整員）50名が集まり、各拠点の事業実施方針と問題意識を共有し、中期計画を見据えたこれからの市民参加協力事業について考える場において、全国の開発教育NGOとの連携・協働について、現状と課題の共有と提案を行い、意見交換をした。また、JICAと相談員事業との具体的な連携・協働についての情報提供を行った。

所感および効果：

今年度「NGO-JICA協議会」の中で「開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」を開催しており、その中でも、全国の開発教育NGOとJICAの国内拠点の連携・協働について議論がされていた。今回、全国のJICAの国内拠点の開発教育支援事業担当者が集まる会議で、地域で開発教育・国際協力を実施する意義や、NGOとの連携について情報提供し、協議が出来たのは大変有意義であった。また、相談員制度に関しても情報提供や存在のアピールができ、全国のJICA国内拠点との連携の具体例が紹介できたのも大変良かった。

地域により、NGO活動が活発でないところもあるが、市民の活動支援について、JICAとNGOさらには、外務省NGO相談員が一緒に対策や協力の可能性を話し合えたのは貴重な機会であった。NGO・JICA双方の参加者の質問や要望についても、NGO相談員が関われる部分が多いことも確認できた。今後、JICAの国内拠点や国際協力推進員との情報交換、連携、協働、また、話し合いの場づくりに対しても、NGO相談員が果たせる役割が多いことを強く感じた。

外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

1月13日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 地域でできる国際協力セミナー

(ア) 【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】

2. 催しの概況:

実施日 平成24年1月22日(日) 10:00~12:00

場所 知多市ふれあいプラザ

対象者 一般20人

概要 企画内容: 広く一般にフェアトレードに関するワークショップを行う。

目的: 講座参加者が、地球規模の課題と自分たちの暮らしとの関係に気づき、地域でできる国際協力について考えるキッカケを作ることを目的とする。すでに地域で市民活動をしている方には、新しい視点や切り口を学び、今後の活動に活かせるような機会。また、国際理解や国際協力に興味を持っている方には、海外とのつながりを持ちながらローカルな活動をすることもできるという情報の提供や、地域活動の動機づけができるような機会を提供する。

3. 実施内容:



【当日のスケジュール、概要】

- 1) 今日のねらい、自己紹介、アイスブレイク
- 2) チョコレートの生産現場のDVD上映
- 3) 貧困はなんで起きるのか? ウェビング
- 4) 貧困のくさりワークショップ。
- 5) 自分にできることは何だろう? ダイヤモンドランキングで考える。
- 6) フェアトレードとは? どうやったら購入できる?

【参加者の感想】

- ・とてもわかりやすい内容であった。気づきを見出しやすい、引き出しやすい。難しい表現でなく、とけこみやすい。とても良かった。
- ・今、世界で起きている「貧困」を解決するために様々な解決方法があることがわかり、フェアトレードを知るキッカケとなりました。
- ・貧困について、あまり深く考えたことがなかったので参加してよかった。今後は意識して買い物をしたいと思う。周囲の人にも伝えていくことが大切だと思った。

平成 24 年 2 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名:「国際協力活動とアフリカ」
【形態:講演・ワークショップ】
2. 出張者氏名:竹内よし子
3. 依頼元/主催団体名等:高知県立宿毛高等学校
4. 実施日時:平成 24 年 1 月 16 日(月)9 時 30～11 時 40 分
5. 実施場所:高知県立宿毛高等学校
(高知県宿毛市与市明 5-82)

6. 実施の概要

宿毛には国際協力NGOがないため、国際協力への理解促進に力を入れている教員から依頼を受けて、昨年度のフォローアップとして企画を立てることとなった。特に 3 年生に対しては、大学への進学、社会人となる前に国際協力に関わる大切さを、アフリカの現状、NGOで働くことなどを知ってもらい、国際的な視野を持ってもらうことをねらいとした講演・ワークショップを実施した。

高校生目線で伝えることに注力できたと思うが、この学校では、国際協力活動に熱心な先生がおられるので、先生と共に生徒が得られる「知るチャンス」「行動するチャンス」を生かして欲しいと伝えた。

以下は当日行った質疑応答の内容である。

- ① 教員から国際協力NGO活動への参加方法についてどのようにしたらよいかという質問に、NGOの会員となり、情報を得て生徒へ定期的に発信する工夫をすることや、学校中で情報共有するしくみをつくってはどうか、高知商業高等学校のラオス支援のように生徒中心のクラブ活動にしてはどうかと提案した。また、高知大学のサークルで国際協力活動を行っている 2 団体を紹介した。

- ② 生徒会役員になっている生徒から、途上国支援のために何か行動を起こしたいという相談があり、高知大学において開催予定の国際協力論への参加を通じて、いろいろな国際協力について学び、意見交換しながら具体的に高校生として何をやっていくか決めたら良いのではないかとアドバイスした。
- ③ 生徒から文化祭で何かを行う場合、どのようなことが可能かという問いがあり、他の高校でフェアトレードの紹介や実践事例があるので、その方法、教員と生徒と一緒に取り組んだ事例を紹介した。また、学校によっては、1回きりでイベント的に終わる場合もあるが、関わっていた教員が転勤しても生徒が中心となって継続している事例があるので、高校生目線で楽しく続けていって、意義がある、意義が深まるものにしていけると良い、とアドバイスした。



講演・展示の様子

以上

平成 24 年 2 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「国際協力と地域活性化」

【形態:相談対応サービス・**講演**・セミナー・ブース】

出張者氏名:竹内よし子

2. 依頼元／主催等団体名:cocokara

3. 実施日時:平成 24 年 1 月 22 日(日)13 時 00 分～17 時 00 分

4. 実施場所:高松市男女共同参画センター(香川県高松市錦町 1 丁目 20 番 11 号)

5. 実施概要:

4 月に当団体が運営するフェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU の視察に来ていた cocokara のスタッフから、コミュニティ・レストラン(以下、コミレス)的な取組みを実践していきたいが、その前に実践者からコミレスを拠点とした国際協力と地域活性化の事例紹介を香川で行ってほしいとの依頼があり、講演・ワークショップを行った。今回の出張サービス依頼元の cocokara は、学生の視点から地域活性化につながる企画・イベントの開催を行う団体であり、今回、「国際協力と地域活性化」をテーマにやりたいことリストを作成し、時間軸、技能、資金、連携などの側面からどのような企画が実施可能かを考えながら意見交換できるような場を持った。今後、他分野 NPO との国際協力に関するボランティア促進のためのネットワークづくりの一歩になったと思われる。

以下は当日の質疑応答の内容である。

① 国学院大学で学祭がなくなることとなったが再開するよう働きかけている。どのように工夫していったらいいかアドバイスして欲しい。(大学生・男性)

最近の大学の学祭では、学生サークルがたこ焼きなどを販売しているが、その目的は、その学祭終了後、部費の確保や打ち上げ代を得るためにやっていることが多い。しかし、もっと、国際協力、貧困削減、人権擁護、環境保全、平和活動など、テーマを決めて、学生らしい活動の展示や発表の場にしてはどうかと提案した。ひきこもり 8 年の経験を持つ相談者としては、今まで内向きだった分、今度は外向きに働きかけていきたい様子だったので、学生として活動する可能性、社会へのインパクトなどについて意見交換した。

② 卒原発への理解促進のためにどうしたら良いか。(NPO スタッフ・女性)

3.11 の後、あらゆる面で今の社会の在り方、今後の方向性が問われているので、勉強会の開催、集まって情報共有・意見交換の場を設けることを提案した。四国 EPO で四国に避難してきている被災者の情報、四国から東北支援としてどんな取り組みがあるかなどの情報を提供していることを伝え、ホームページアドレスを紹介した。

- ③ アフリカ支援に興味がある。どうしたら視野・見聞を広め、関わりを持つことができるか。(大学生・男性)
四国にある NGO の中で、アフリカ支援に取り組んでいる団体を紹介した。また、当団体が 3 年ぶりに支援物資をモザンビークに輸送する計画があるので、ボランティア参加しながら、アフリカ・モザンビークに興味を持っている人々と意見交換してはどうかと提案し、アレンジした。



講演・ワークショップの様子

以上